

### 新学年を迎える ミャンマーの6月は 始まりの季節



左からワイン ティンギ ソーさん  
チャー ナインウーさん  
エイントウシン チョウナインさん (14歳)



2004年に故郷バゴの寺院に寄付をしたときの儀式の様子

**水かけ祭りが終わると  
新年と新学年の準備がスタート**  
3月中旬〜5月末は学校はお休みで、6月から新しい学年が始まります。休みの前半は思いきり遊び、後半は新学年に向けて一生懸命勉強します。  
その区切りとなるのが水かけ祭り。ミャンマーのお正月は4月17日ごろで、その前の3〜4日間に行われる水かけ祭りは、水をかけ合うことで悪い気を払い、新しい年を迎えるものです。家の前や道路にバケツが用意されており、誰にでも水をかけていいので、みんなびしょぬれになります。この祭りが終わると、子どもたちは次の学年に向けて準備を始めます。

**仏教を信じる心が厚く  
目上の人を大切に子どもたち**  
ミャンマーでは、8割ほどの人が仏教を信仰しています。家の仏壇に向かって手を合わせ、おしゃか様や両親・先生への感謝の気持ちを表すことから1日が始まります。記念日やお祝いするときなどに寺院に寄付をすることも習慣で、子どももお小遣いを含め誕生日などに寄付をします。  
目上の人をとても大切にすることも、ミャンマーの特徴。先生と気軽に話す習慣がないので、日本では、クラスメイトが先生と友達のように話している、初めは驚きました。

★ ★ ★ ★ ★  
**ミャンマーのおやつ ラペッター**  
お茶の葉を半年〜1年発酵させて作る、世界でも珍しい食べるお茶。塩やレモン、ナンブラー(魚で作るしょう油)などで好みの味をつけ、木の葉や干しエビ、乾燥ニンニクなどと一緒にティータイムや食後にいただきます。日本の漬け物に少し似ていて、血のめぐりをよくするといわれています。



韓国のお店が多い大久保にもよく遊びにきます

**家族や親せきがみんなそろって  
昔ながらの遊びを楽しみお盆**  
故郷の宝城(ボソン)は、お茶の産地として知られる緑豊かな南部の都市。夏休みは川で友達と泳いだり、魚や貝を捕ったりと、自然の中でたっぷり遊び、勉強はあまりしませんでした。  
韓国でも、お盆には家族や親せきが集まって過ごします。そこで登場するのが昔ながらの遊び「ユンノリ」。日本のすごろくに似ていますが、さいころではなく小さな木の棒4本を投げ、棒の裏表の出方で決まる点数によって、コマを進めていきます。2チームが対戦するので、とても盛り上がりやすいです。

**暑いものをしっっかり食べて  
体の中から元気になる**  
暑いときには熱いものを食べて汗をかき、体の中の悪いものを出し、元気に過ごします。韓国の暦には、初伏(チヨボツ)・中伏(チュンボツ)・末伏(マルボツ)という暑さの厳しい日があり、この日は、鶏1羽にもち米や高麗ニンジンなどを入れて煮込んだ参鶏湯(サムゲタン)をいただきます。ほかにも夏には、切ったスイカに氷やソーダ水をかけて食べたり、小麦や米などを粉末にしたものを牛乳や豆乳で溶かして飲むミスカルも人気です。

★ ★ ★ ★ ★  
**韓国のおやつ ホットク**  
小麦粉で作った生地には、はちみつやピーナツバターなどをはさんで鉄板の上で焼く、ホットケーキのような菓子。韓国では秋から冬にかけて屋台などで売っています。生地にトウモロコシを練り込んだり、中に木の葉や豆を入れたり、種類も豊富。新宿でも売っています。

### 熱いものを食べて 暑さを乗り切る 韓国の夏の知恵



ピョン ユンナムさん(左)と  
キム ハビョンさん(13歳)

# 教えて! 世界の夏休みや暮らし方 日本とはどんなところが違っていませんか?

日本と気候や文化の異なる国では夏をどのように過ごすのでしょうか。日本で暮らす4か国の親子に、夏休みの過ごし方や日本との違いを聞きました。

### 家族みんなで 屋台で過ごす 中国の夏の思い出



松宮未来さん(右)と由美ちゃん(6歳)



19歳から住んでいた上海で親子一緒に

**みんなで一緒に歌う  
夏の楽しみはカラオケの屋台**  
幼いころは、北西部の新疆(しんきょう)ウイグル自治区で夏休みを過ごしました。タクラマカン砂漠があることでも知られ、最近では経済発展を目指して開発が進み、観光地としての人気も高まっている地域です。  
夏は日が暮れる時間が遅く、子どもたちも遅くまで外で遊んでいます。まちにはいろいろな屋台が出て、家族みんなで楽しめます。めずらしいのがカラオケの屋台。日本のカラオケボックスとは違い、知らない人も一緒に歌って歌ったり、聴いたりして楽しんだのが、ウイグルでの夏の思い出です。

**50を超える民族が暮らす中国は  
食べ物や言葉もさまざま**  
中国には50を超える民族が暮らしていて、それぞれ言葉や文化、食べ物などが異なります。例えば、「こんにちは」を北京語では「ニハオ」と言いますが、上海では「ノンホ」と言い、2つは違う国の言葉のよう。  
食べ物もさまざま。ウイグルでよく食べたのが拉条子(ラーティアオ)。細く伸ばしためんじョガイモなどの野菜と羊の肉を炒めた具をのせ、混ぜながら食べます。塩気と辛みが効いていて、食べると元気が出る料理です。

★ ★ ★ ★ ★  
**中国のおやつ 月餅(げっぺい)**  
「月」に見立てた焼き菓子で、中国では中秋の名月(9月の満月の日。旧暦の8月15日)に食べるものとされています。中には、あずきやハスの実などの「あん」を入れます。最近では、アイスクリームが入った新しいタイプもあり、ツバメの葉やフカヒレが入った高級品は、贈り物にも使われます。



日本の古い家具が多くある自宅。着物は友人からのプレゼント「日本の家具のシンプルところが好きです」

**まちに登場する「砂浜」が  
パリの夏の名物**  
7月中旬から約1か月間、「パリ・プラーージュ」と呼ばれる人口の砂浜がセーヌ川沿いに現れます。道路や広場に砂を敷いたり仮設のプールを作ったりするイベントで、海から離れているパリの市民は、ここで日光浴を楽しみます。  
フランスでは、多くの人は夏の間は休みをとって、地方や海外にバカンスに出かけるので、夏のパリは混雑が減り、美術館や博物館などを巡るのにもよい季節です。日本と違って雨期がないので湿度も低く、比較的過ごしやすい夏のパリ。散策もおすすめです。

★ ★ ★ ★ ★  
**フランスのおやつ シュケッツ**  
小さく丸く焼いたシュー生地には、パールシュガーという大きな粒状の砂糖をかけた、子どもが大好きなお菓子。パン屋さんで売っていて、家でも作ります。アイスクリームやチョコレートソースをかけるなど、いろいろな工夫して食べます。

### 大人も子どもも 思いきりバカンスを 楽しむフランスの夏



左からニコラくん(12歳)、ジュリちゃん(4歳)  
イネス・コベリさん、ポールくん(13歳)

**勉強や仕事から離れる休日は  
家族のきずなを深める大切な時間**  
普段は勉強や仕事に全力を注ぎ、休みの日の時間は、最大限に自分と家族のために有効に使うのがフランス流。休日は、勉強や仕事のことなどは忘れず。  
特に大切になっているのが家族と過ごす時間。一緒にスポーツをしたり、家でリラックスしたりと、家族全員が同じ時間を過ごします。子どもたちが2か月間の休みに入る夏休みには、親と子がお互いの話をじっくり聞くには絶好のチャンス。いろいろな話をして、家族のきずなを深めます。